

## 教科目名 現代文 (Modern Japanese)

学科名・学年 : 全学科 3 年

単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 後期 1 コマ, 授業時間 46.5 時間)

担当教員 : 山田繁伸

授業の概要			
高等学校の検定教科書「現代文」4 単位用をテキストとして読んでいく。古典的な評論と精読に堪える定番小説教材を中心に読むと同時に、新しい教材をも読む。それぞれの教材に関連した古典にも出来るだけ触れ、日本の言語文化の奥深さと豊かさを実感する。その実感を通して、言葉による伝え合う力・考える力・感じる力を養う。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (C1)	
(1) 文章に応じた関連資料を駆使し、近代以降の文章を深く読み解く力を身につける。(定期試験と課題)			
(2) 論理の展開や要旨をとらえ、それらを参考にし、自分の考えを創造し表現する力を身につける。(定期試験と課題)			
(3) 作中の登場人物の心情を正確に把握し、自らの考え方・生き方を豊かにする。(定期試験と課題)			
(4) 優れた表現を味わい、自らの言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。(定期試験と課題)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	評論「サハラ砂漠の茶会」	○人間・社会・自然について様々な観点があることを読み取り、自ら深く考える。 ○作中の人物の喜びや悲しみなどの心情をリアルにとらえ、優れた描写を味わうことを通して、ものの見方や感じ方を広げる。	【理解の度合い】
2	評論「止まることを恐れない」		
3	〃		
4	小説「ナイン」		
5	小説「友情の杯」		
6	〃		
7	韻文・詩「荒城の月」		
8	評論「逆さに地図を眺めてごらん」		
9	前期中間試験		【試験の点数】 点
10	前期中間試験の解答と解説 評論「文化と理解」	○論理的な展開を把握し、そこにこめられた作者の見方や考え方を学び、社会や人間についての考えを深める。 ○作品の成り立ちを含めた立体的な読みを構築する。 ○小説の文体の特色を理解し、文学史的知識も身に付ける。	【理解の度合い】
11	〃		
12	小説「山月記」		
13	〃		
14	〃		
15	前期期末試験 前期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
16	評論「悲しむ」	○論理の展開を逐い、具体例からどのような事実が明らかになっているか、その過程を正確に読み取る。 ○敬語の正しい使い方を身につける。 ○表現上の特色に留意し、情景や心情をとらえることを学び、人生や自然について深く考える。	【理解の度合い】
17	評論「創造性としてのレトリック」		
18	〃		
19	評論「敬語の正誤」		
20	小説「春愁」		
21	〃		
22	〃		
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24	後期中間試験の解答と解説 評論「漱石と文明開化」	○現代の感覚や考え方をとらえなおす作者の発想を理解する。 ○読むことを契機に自らの意見を持ち、現代に通じる問題を考える。 ○近代という時代とその中に生きる人間の自我獲得の有り様を読み取り、現代と引き比べて考察する。	【理解の度合い】
25	評論「小さな巨人の時代」		
26	評論「戦後その精神風景」		
27	小説「高瀬舟」		
28	〃		
29	〃		
30	後期期末試験 後期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
履修上の注意	プリント等の課題は、必ず指示に従い提出すること。		【総合達成度】
教科書	北原保雄他、「新現代文 改訂版」、大修館書店		
参考図書	山田繁伸、「おおいたの歌碑を歩く」、大分合同新聞社		
自学上の注意	授業で配布した資料は自宅で整理しファイルに綴じておくこと。		
関連科目	国語総合、地域日本文学、日本語表現法		
総合評価	達成目標の(1)～(4)について、4回の定期試験と課題で評価する。 総合評価＝0.8×(4回の定期試験の平均点)+0.2(課題点) 総合評価が60点以上を合格とする。再試験は、総合評価が60点に満たない者に対して実施する。		【総合評価】 点